甲南大学経済学会
懸賞論文書き方ガイダンス　第1回[準備編]

2022年9月1日
甲南大学経済学部　寺尾　建
terao@konan-u.ac.jp

［Ⅰ］論文とは，研究の成果が示された文書である

［Ⅱ］研究テーマとは，人類にとって未解明・未解決の問題・課題である

［Ⅲ］文献は，第三者が同じものを確実に探せる方法によって探す

［Ⅳ］論文は，（最初は）主要な結論とその根拠に注目して，全体像を把握するべく読む

［Ⅴ］論文の執筆は，論文全体の「設計図」を用意することから始める

［Ⅵ］論文の構成は，自身の主張を読者に理解・支持してもらうためのものである

［Ⅶ］論文の執筆は，「作業進行予定表」を用意した後に開始する

［参考文献］

［01］小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』（講談社現代新書，2022年）
［01］花井等・若松篤『論文の書き方マニュアル』（有斐閣アルマ，1997年）
［02］酒井聡樹『これから研究を始める高校生と指導教員のために』（共立出版，2013年）
［03］「経済セミナー　2021年8・9月号〈特集〉経済論文の書き方［はじめの一歩編］」（日本評論社，2021年9月）
［04］甲南大学図書館「情報探索ガイド　2022年度版」（甲南大学図書館，2022年4月）

［はじめに］

論文を執筆するために必要なのは，特別な才能やひらめきではなく，粘り強さです．諦めることなく，正しい方法にしたがって，必要となる段階を確実に踏んでいくならば，誰でも必ず論文を書くことができます．

この「懸賞論文書き方ガイダンス 第1回［準備編］」では，「論文の執筆に興味・関心はあるものの，これまでに論文を執筆した経験はない」という人々を対象として想定し，論文を執筆するにあたって必要となる予備的・準備的な作業に関する事項を含めて，論文を執筆するにあたって必ず理解しておくべきことと，必ず行うべきことについて解説します．

［Ⅰ］論文とは，研究の成果が示された文書である

「レポート（報告書）」と区別される「論文（学術論文）」とは，研究の成果が示された文書のことです．「研究」とは，「人類にとって重要であると判断される学術的問題・課題について，その解明・解決に貢献する知的活動」のことですが，それは，ひらたくいえば，「これまでで誰も知らないことを明らかにすること」です．

まず，書き手の立場で考えてみると，レポートは，他者によって論題・テーマが与えられることも少なくないのに対して，論文は，自らが論題・テーマを決定するものであるという違いがあります．次に，読み手の立場で考えてみると，レポートが，人類にとっては既知あるいは解決済みの問題・課題に関するものであることもありえるのに対して，論文は，人類にとって未解明・未解決であり，その解明・解決が多くの人によって望まれる問題・課題に関するものであるという違いがあります．

レポートは，人類にとって「新しくて正しいこと」が何ら含まれておらず，そこにおいて自分にとって「新しくて正しいこと」しか示されていなくとも，許容されうるものです．極端にいえば，レポートの場合には，すでに知られていることを整理してまとめただけでもよいわけです．しかしながら，論文は研究の成果が示された文書ですので，人類にとって「新しくて正しいこと」が必ず示されていなければならず，「すでに知られていることを整理してまとめること」以上のことが必ず求められます．つまり，論文には，その要件として「新奇性」「独創性」が必ず求められるということです．

論文では，人類にとって「新しくて正しいこと」が示されなければなりません．したがって，論文を書くためには，自分が「知っている／知らない」という問題と人類が「知っている／知らない」という問題とが明確に区別されていることが不可欠となります．このことから，レポートと比べると，論文は，執筆するのが格段に難しいということになります．

［Ⅱ］研究テーマとは，人類にとって未解明・未解決の問題・課題である

研究テーマとは，研究によって明らかにされることになる，人類にとって未解明・未解決の問題・課題のことです．それは通常，簡潔かつ明確な問い（「リサーチ・クエスチョン」とよばれますが，そのまま，論文のタイトルの最有力候補ともなります）のかたちで示すことができます．それでは，研究テーマを選択・決定するにあたっては，いったいどのようなことが必要となるのでしょうか．

甲南大学経済学会における学生懸賞論文についても当てはまることですが，一般に，論文における研究テーマは――研究の分野やアプローチ（分析や考察の手法）があらかじめ定められているケースもありますが――執筆者において自由に選択・決定することができます．しかしながら，この場合の「自由」とは，「どんなものであってもかまわない」ということではありません．［Ⅰ］で述べたように，論文とは研究の成果が示されるものですから，研究テーマは，人類にとって重要であると判断される何らかの学術的問題・課題に関するものでなければなりません．

したがって，研究テーマを決定するにあたっては，まず，研究テーマの候補となる事項について，これまでに何がわかっていて，何がわかっていないのかを入念に調査し，確認しておく必要があります．すなわち，研究テーマを決定するためには，テーマに関連する「先行研究」とその成果とを，確実に把握しておく必要があります．先行研究に関する調査を怠ると，「自分がはじめて明らかにしたと思ったことが，実はすでに明らかにされていた」という事態に陥りかねません．

研究テーマが決まるまでのプロセスは，典型的には，次のようなものになります．

① 自分が明らかにしたいと考える問題・課題が扱われている専門分野が何であるかを調べる
② その専門分野の文献（学術論文や学術書）を調査して，これまでに明らかになっていること，まだ明らかにはなっていないことを確認する（論文では，通常，最後のパートで，未解明・未解決の課題が示されます．また，その学問において主要な分野であると専門家によって判断されている分野では，その分野でそれまでに行われた研究の成果と残された課題をまとめた「サーヴェイ論文（概観論文）」とよばれる論文が定期的に執筆されます．「サーヴェイ論文（概観論文）」は，通常，その分野の第一人者と目される研究者・専門家が執筆します）
③ その専門分野においてまだ明らかにはなっていないことのなかから，問題の重要性，自身の興味・関心，自身の知識，論文執筆に充てることのできる時間と労力などを総合的に勘案して，研究テーマを選択・決定する

繰り返しになりますが，研究テーマは，人類にとって重要であると判断される何らかの学術的問題・課題に関するものでなければなりません．しかし，だからといって，自分にとってまったく興味・関心がないことについて考えなければならないということではありません．研究テーマを選択・決定するにあたっては，自身の興味・関心に従ってよいわけですが，その際に，自身の興味・関心に終始するようなことはあってはならないということです．

研究テーマを選択・決定するにあたっての要点は，「自身の興味・関心が，他者にも共有されるべき重要性と一般性を備えていること」を説得する用意をすることです．ここで，このことを理解してもらうために，あえて卑俗な喩えをしてみましょう．たとえば，「〇〇さんと私が恋人同士になるには，どうしたらよいか？」というのが自身の興味・関心のある問題であるとき，そのままでは，研究テーマにはなりません．しかし，「恋人をつくるために最も有効な方法とは何か？」という問題であるならば，多くの人々の関心事となりえます．このように，多くの人々の関心事となりえるように問題・課題が捉え直されている（加工されている）のであれば，自身の興味・関心に終始するということにはならないので，研究テーマとなりうるということです．

以上で述べたようなことをふまえて決定される研究テーマは，「なに？（what）」「いつ？（when）」「どこ？（where）」「だれ？（who）」「なぜ？（why）」「どのように？（how）」のいずれか，あるいは，それらの組み合わせとして表現されることになります．すなわち，適切な方法によって選択・決定された研究テーマは，必ず問いのかたちになります．したがって，研究テーマを選択・決定するというのは，人類の誰からみても「解答が与えられるべきである，あるいは，解決策が示されるべきである」と判断・評価されうるような問題・課題を見極めることにほかなりません．

［Ⅲ］文献は，第三者が同じものを確実に探せる方法によって探す

先行研究に関する調査も含めて，論文の執筆のために必要となる文献を探す際に重要なことは，第三者が同じものを確実に探せる方法によって探すことです．たとえば，自分のパソコンやスマートフォンにインストールされている検索エンジンを使って検索をした場合，その検索エンジンは，あなたのこれまでの検索履歴を参照します．したがって，他の人が，あなたが指定したのと同じキーワードを指定したとしても，その人のスマートフォンやパソコンで検索した場合には，あなたが得たのとは異なる検索結果が表示される可能性が小さくありません．個人的に気になったことについての調べものなのであれば，手元のスマートフォンで検索するというのでもまったくかまいませんが，論文において引用・参照される文献や情報は，「いつ／どこで／だれが探しても同じものが見つかる」という意味での再現性を有する方法によって探すことが求められます．

［Ⅱ］において述べたように，研究テーマを選択・決定するにあたっては，先行研究を必ず参照し，その成果を確認しなければなりません．また，研究を進めていくなかでは，新たに情報を収集し，新たに知識を蓄えなければならないといった事態が生じるのが通常です．以下では，そのような研究活動の一環としての文献の探し方の基本について述べることとします．

研究においては，「学術的知見」を必ずふまえる必要があります．ここで「学術的知見」というのは，研究者・専門家が，その研究成果を学術雑誌に掲載される論文や専門的な学術書として発表したもののことです．学術雑誌に掲載される論文や専門的な学術書として公表されている研究成果は，通常，第三者による「査読」ないしは編集・校閲作業を経ているという点で，他のものと比べて，その信頼度が有意に高くなっています．

まず，学術雑誌に掲載されている論文を検索する方法についてですが，最も簡便なのは，［Google Scholar］を使ってキーワード検索をすることです．［Google Scholar］はGoogleが提供している無料検索サービスですが，これまでに世界で出版・公表されている学術論文を検索することができます．なお，甲南大学内から［Google Scholar］を使ってキー

ワード検索をすると，甲南大学が購読料を支払って購読している学術雑誌に掲載されている論文については，その電子ファイルがダウンロードできるリンク（フルテキストリンク）が直接表示されますので，そのリンクをクリックすることによって，論文をすぐにダウンロードして入手することができます．

［Google Scholar］を使ってキーワード検索をして見つけることのできる学術論文は，数でいえば，英語で書かれたものが圧倒的に多くなります．そこで，日本語で書かれた学術論文を見つけたいという場合には，［甲南大学図書館HP］→［情報検索データベース］→［雑誌記事・論文］と辿っていくと，［CiNii Articles（サイニーアーティクルズ）］ならびに［J－STAGE］という，日本語で書かれた学術論文を探すためのデータベースのリンクが用意されていますので，それらを使ってキーワード検索をするとよいでしょう．

その他，学術書ならびに新聞や雑誌の記事の検索方法，ビジネスに関連する情報やデータの入手方法については，甲南大学図書館が発行している「情報探索ガイド」に詳しく記載されていますので，そちらを参照してください．*

最後に，念のために付け加えておきますが，研究においては，文献やデータなどは，「いつ・どこで・だれによって作成・公表されたのか」が不明なもの，すなわち出典・出所が不明なものは，引用も参照も絶対にしてはなりません．

［Ⅳ］論文は，（最初は）主要な結論とその根拠に注目して，全体像を把握するべく読む

研究テーマが決まり，自分の論文の「お手本」もしくは「モデル」となる論文も含めて，先行研究に関する論文を入手し終えたとしましょう．論文には，数ページ程度の比較的短いものもあれば，数十ページにわたる比較的長いものもありますが，いずれにしても，研究の参考とするための論文を読むにあたって，まずもって重要なことは，その概要を把握することです．

学術論文であれば，通常，本文とは別に，冒頭部分において「要旨（abstract）」が示されており，そこにおいては，分析・考察の対象とされた問題・課題と，その問題・課題の分析・考察の手法ならびに分析・考察の主要な結果が示されています．したがって，まず，「要旨」に目を通し，自身の研究テーマとの関連性の大きさについての判断・評価をして，収集した論文を，自身の研究テーマとの関連性の大きさにしたがって，分類・整理しましょう．

その次に，基本的には，自身の研究テーマとの関連性が大きい論文から順に目を通していくことになりますが，どのような論文であっても，最初に読む際には，隅から隅まで読む必要はありません．最初に読む際には，その論文の全体像，すなわち，その論文における主要な結論・主張とその根拠・論拠を把握することを第一の目標としましょう．

学術論文・学術書では，通常，「はじめに」や「序論」において（英文の場合であれば，“Introduction”と題される最初の節・章において，その学術論文・学術書で扱われている問題・課題，問題・課題に関する分析・考察の手法，そして学術論文・学術書の全体における主要な結論・結果が要約的に示され，また，その学術論文・学術書の各節・章の目的と主要な結論とが要約的に示されています．したがって，最初の節・章は，少し丁寧に読んで，その学術論文・学術書で示されている研究成果の概要を把握するように努めましょう．そしてまた，学術論文・学術書では，通常は，「おわりに」や「結論」において（英文の場合であれば，“Conclusions”“Discussion”と題される最後の節・章）において，未解明・未解決の問題・課題とその問題・課題の解明・解決への見通しなどが示されています．

以上で述べたことを要約すると，学術論文・学術書を読む際には，①最初に読む際には，主な「主張」「結果」「結論」とその根拠となる「事実」「説明」「証明」とが何であるかを把握することを第一の目標として，学術論文・学術書の全体像を把握するために通読する ②その次に，自身の研究テーマとの関連性が特に大きい事項を抽出し，それについては，詳細な事項までを理解するために精読する というように，段階的に読むことが効率的かつ効果的だということになります．

* 以下のリンクから「情報探索ガイド」をダウンロードすることができます．
https://www.konan-u.ac.jp/lib/wp-content/uploads/2022/03/johotansaku_guide2022.pdf

［V］論文の執筆は，論文全体の「設計図」を用意することから始める

研究テーマが決まり，先行研究の概要を把握する段階を経た後に，論文の執筆作業が始まることになります．ただし，いきなり本文の文章を書くことはせず，論文を執筆するにあたっては，はじめに，論文全体の構想を練ることから始めましょう．ここでいう「構想」とは，論文全体の「設計図」のことです．「設計図」が手元にないままで執筆を進めていくと，ほぼ間違いなく，自分がいま何のために何を書いているのかが不明になってしまう状態に陥ることになります．

論文の標準的な構成は，次のようなものです．

- □ タイトル
- □ 著者名
- □ 所属
- □ 序論： 分析・考察の対象となる問題・課題の内容と問題・課題の重要性を説得的に述べる．
- □ 本論： 分析・考察の方法とその妥当性，ならびに分析・考察の過程を示す．
- □ 結論： 分析・考察によって得られた解答・解決策とその意義，関連する課題・問題についての考察を述べるとともに，未解明・未解決の問題・課題がある場合には，それらを示す．
- □ 引用・参考文献： 論文において引用した文献ならびに研究を進めるなかで参照した文献などを示す．
- □ 図表・データ： 本文中で示されるべき箇所を付記する．

論文を執筆するにあたっては，先に，序論・本論・結論の各々について，それぞれのパートにおける主な主張（メイン・メッセージ）を要約的な文章で表現しておくとよいでしょう．それは，たとえば，次のようなものです．

- □ 大学生が恋人をつくるために最も有効な方法とは何か？
- □ 寺尾 建
- □ 甲南大学経済学部
- □ 序論：

  現代の日本では，既婚者の3割弱が，学生時代の恋人をパートナーとしており，さらに，そのうちの6割強が，大学時代の恋人をパートナーとしている．したがって，大学時代に恋人ができるか否かは，本人の幸福度はもちろん，国全体における生涯未婚率や出生率などにも影響を与えうる．
- □ 本論：

  株式会社KEIアドバンスの協力のもと，全国の四年制大学に通う4年次の大学生1万人（男女各5千人）を対象とするアンケート調査を行い，現在も含めて直近半年間において恋人がいる者とそうでない者とのあいだで，「通学時間」「所属する学科の学問系統」「所属する学科の収容人数」「所属する学科の男女比」「所属する学科におけるPBL（Project-Based Learning）型授業の履修経験の有無」「3年次終了時点における通算GPA」「3年次のジェネリックスキル判定テストのスコア」「クラブやサークルへの所属への有無」「クラブやサークルに所属している場合における，その種類と規模」「アルバイト経験の有無」「アルバイト経験がある場合における，1週間当たりのアルバイトの時間」「アルバイト経験がある場合における，アルバイトの業種・職種」「主に使用しているSNSの種類」「主に使用しているSNSの1日あたりの利用時間」「恋人の属性（大学生か否か，大学生である場合には，所属する学科の学問系統と学年）」などについて，統計学的に有意な差が検出されるか否かを分析した．
- □ 結論：

  gretl[†]による回帰分析において統計学的に有意であった結果をふまえると，「PBL型授業の履修経験がある」という属性を有する大学生は，そうではない大学生と比較して，恋人がいる確率（割合）が3倍程度大きく，この数値は，全属性による比較のなかで最大であるという結果を得た．この結果から，大学生が恋人をつくるには，PBL型授業を履修することがその可能性を大きくするのに有効であることが示唆され，さらには，大学生がPBL型授業を履修することは，生涯未婚率の低下と出生率の上昇につながりうることも示唆される．

[†] 「gretl（グレーテル）」は，主として経済学分野での利用を想定した開発されたオープンソースの統計分析ソフトウェア・パッケージです．甲南大学内に配備されているすべてのパソコンには，gretl がインストールされています．

以上のように「序論」「本論」「結論」を要約的に示しておくと，その「序論」「本論」「結論」をつなげてまとめたものがそのまま論文の「要旨」となるだけではなく，「序論」「本論」「結論」のそれぞれにおいて何が述べられるべきかを先に確定することになりますので，論文の「設計図」として，きわめて有用なものとなります．

さらに，上で示したような「設計図」の「序論」「本論」「結論」をさらに分解して，次のような「章立て」までを作成することが，論文を執筆するうえでは，いっそう有益となります．

- □ 序論：
  1. 現代の日本では，既婚者の3割弱が，学生時代に知り合った人をパートナーとしており，さらに，そのうちの6割強が，大学時代に知り合った人をパートナーとしている．
  2. 1. の主張の根拠となるデータを示す．
  3. したがって，大学時代に恋人ができるか否かは，本人の幸福度はもちろん，国全体における生涯未婚率と出生率にも影響を与えうる．
  4. 3. の主張が合理的であることを示す．
- □ 本論：
  1. 株式会社KEIアドバンスの協力のもと，全国の四年制大学に通う4年次の大学生1万人（男女各5千人）を対象とするアンケート調査を2022年5月に行ったことを述べる．
  2. 1. で述べたアンケート調査の概要を示す．
  3. 現在も含めて直近半年間において恋人がいる者とそうでない者とのあいだで，属性の比較を行った．
  4. 属性の比較の基準として採用された項目は，
     「通学時間」
     「所属する学科の学問系統」「所属する学科の収容人数」「所属する学科の男女比」
     「所属する学科におけるPBL（Project-Based Learning）型授業の履修経験の有無」
     「3年次終了時点における通算GPA」「3年次のジェネリックスキル判定テストのスコア」
     「クラブやサークルへの所属への有無」「クラブやサークルに所属している場合における，その種類と規模」
     「アルバイト経験の有無」「アルバイト経験がある場合における，1週間当たりのアルバイトの時間」
     「アルバイト経験がある場合における，アルバイトの業種・職種」
     「主に使用しているSNSの種類」「主に使用しているSNSの1日あたりの利用時間」
     「恋人の属性（大学生か否か，大学生である場合には，所属する学科の学問系統と学年）」
     などである．
  5. 3. で示された各属性に関して，得られたデータの特徴を示す．
  6. 3. で示された各属性は，本人が選択しうるものとそうでないものとに区別されることを述べる．
  7. 3. で示された各属性に関して統計学的に有意な差が観察されるか否かを分析する方法を示す．
  8. 7. で示された分析の方法が信頼できるものであることを示す．
- □ 結論：
  1. gretlによる回帰分析において統計学的に有意であった結果を示す．
  2. 「アクティブラーニング型授業の履修経験がある」という属性を有する大学生は，そうではない大学生と比較して，恋人がいる確率（割合）が3倍程度大きいという結果を示す．
  3. 2. で示された数値が，全属性による比較のなかで最大であることを述べる．
  4. 2. の結果に関連して，「すでに恋人がおり，新たな人間関係を構築することに積極的であるという属性を有する者がPBL型授業を好んで履修しているだけではないのか」という主張に対する反論を示す．
  5. 2. と3. ならびに4. から，大学生が恋人をつくるには，PBL型授業を履修することが有効な方法であることが示唆されることを述べる．
  6. 2. と3. ならびに4. の結果から，さらに，大学生がPBL型授業を履修することは，生涯未婚率の低下と出生率の上昇につながりうることも示唆されることを述べる．

以上のようにして作成される「章立て」を用意しておくと，論文を執筆する過程において，論文の全体像を見失うこともありませんし，論文で主張すべきことを書き漏らすこともなくなります．

［Ⅵ］論文の構成は，自身の主張を読者に理解・支持してもらうためのものである

論文の構成は，典型的には，［Ⅴ］で示したようなものになりますが，論文が読者に自身の主張を理解してもらい，さらには自身の主張を読者に支持してもらうことを目的としている文書であることをふまえて，ここでは，序論・本論・結論のそれぞれを実際に執筆するにあたって留意すべきことについて述べます．

1．序論を執筆する際に留意すべきこと

序論は，研究の目的・意義を説得的に述べるためにあるものです．したがって，序論とは，たんなる「前書き」「前置き」ではありません．どのような問題・課題を解明・解決するのか，そして，その問題・課題を解明・解決することがなぜ重要であるのかについて，読者を説得することが，序論の目的です．繰り返しになりますが，序論は，

- ☐ 何を明らかにする研究であるのか
- ☐ 何のためにする研究であるのか

ということについて，読者を説得するためのものです．「何のためにする研究であるのか」について述べるということは，

- ☐ どのようなことが研究の背景にあるのか
- ☐ どのような問題・課題に取り組むのか
- ☐ 何を重視して，その問題・課題に取り組むのか
- ☐ その問題・課題とそれに取り組む目的・理由が重要であることの根拠は何か

ということについて述べるということです．極端な話としては，序論において，「私が興味・関心のあることなので，研究した」と主張されている場合には，すでに読者が同じような興味や関心を抱いている場合を除いて，読者が興味や関心を抱くことは期待できないでしょうし，読者を説得できる可能性も小さくなるに違いありません．序論においては，自身の興味・関心が私的なものではなく，公的な価値を有するものであることを客観的に示す必要があります．

2．本論を執筆する際に留意すべきこと

本論では，論文の主要な結果・結論がどのようにして導かれるのかを明確に示す必要があります．その際に重要なことは，

- ☐ 分析・考察の対象を明示すること
- ☐ 対象を分析・考察する方法が適切であることを示すこと
- ☐ 対象を分析・考察する方法として，読者がそれを再現できるものを採用すること

です．本論では，「同じ分析・考察を行うならば，いつでも／どこでも／だれが行っても，同じ結論・結果が必ず導かれる」ということを示す必要があります．したがって，分析・考察の対象に関する情報・知識や，分析・考察の方法に関する情報・知識に関しては，本論のなかで，「同じ分析・考察を行うならば，いつでも／どこでも／だれが行っても，同じ結論・結果が必ず導かれる」ということを保証するのに十分なものが提供されなければなりません．

さらに，分析・考察の際の論理の展開や推論の過程は，主張とその根拠・論拠との関係を明らかにするとともに，それは，「同じ分析・考察を行うならば，いつでも／どこでも／だれが行っても，同じ結論・結果が必ず導かれる」ということが保証されるようなかたちで示されなければなりません．また，事実とその事実にもとづく主張（意見・解釈）とが明確に区別されている必要があることは，いうまでもありません．

3．結論を執筆する際に留意すべきこと

結論の役割は，

- ☐ 分析・考察を行なった問題・課題ならびに得られた主要な結果・結論について，わかりやすくまとめて示すこと
- ☐ 先行研究によって得られている成果をふまえ，新しい結果・結論として何が得られたのかを明確に述べること
- ☐ 得られた主要な結果・結論に関して，その意味と重要性を中心に，考察されることを述べること
- ☐ 未解明・未解決の問題・課題があれば，それを示すこと
- ☐ 未解明・未解決の問題・課題について，その解明・解決の見通しについて考察されることを示すこと

です．結論とは，研究の対象となった問題・課題に対する解答・解決策が示されるパートですから，読者に対して，研究の対象となった問題・課題の重要性が説得的に示されなければなりません．

［Ⅶ］論文は，「作業進行予定表」を用意した後に，執筆を開始する

［Ⅴ］と［Ⅵ］で述べたようなことがすべて完了した後に，論文の本文を執筆する作業に取り掛かります．

たとえば，甲南大学経済学会における学生懸賞論文の要件は，タイトル・目次・図表・アンケート票などの付録類のすべてを含めて，日本語の文字数で16,560字以上27,600字以下（A4サイズ，40字×36行／ページ，12ページ以上20ページ以下）となっています．学生懸賞論文に応募する場合には，おそらく，そのほとんどすべての人にとって，これまでの人生で最も分量の大きい文書を作成するということになるはずです．

いうまでもなく，文章を書くスピードは人によって異なりますが，ぼく自身のこれまでの指導経験からいえば，平均的な大学生を想定する場合，20,000字を書くためには，少なくとも計80時間程度を要することになると思います．したがって，1日8時間を執筆作業に充てるとするならば，少なくとも計10日間を要するということになりますし，1日4時間を執筆作業に充てるとするならば，少なくとも計20日間を要することになります（ちなみに，この文書は計12,355字ですが，ぼくは，完成させるのに計10時間を要しました．これは，大学教員としては「速くもなく，遅くもない」という程度のスピードだと思います）．

なお，「1日8時間×10日間」であれ，あるいは「1日4時間×20日間」であれ，それは，あくまでも執筆そのものに要する時間です．すでにこれまでに述べてきたように，執筆の前には，

- □ 研究テーマを決定するための予備的・準備的調査
- □ 論文の構成を決定するための作業
- □ 論文で示されるべきことに関する分析・考察

を行なう必要があります．たとえば，全体での持ち時間を10とすると，論文を執筆する際の目安となる標準的な時間配分は，

- □ 研究テーマを決定するための予備的・準備的調査：　2
- □ 論文の構成を決定するための作業：　1
- □ 論文で示されるべきことに関する分析・考察：　3
- □ 論文の執筆：　3
- □ 論文の完成（字句や体裁の修正などを含む）：　1

といったものとなるでしょう．

上で示した目安では，論文の執筆が「3」ですが，これが「1日4時間×20日間」である場合には，約3週間かかるということになります．したがって，全体では約10週間，少なくとも2か月半を要することになります．2週間程度の余裕をもつことにすれば，「論文の執筆には，最低でも3カ月程度を要する」と見込んでおくのが適当であるといえるでしょう．

以上のことから，論文を執筆するにあたっては，A4・1枚程度のものでよいので，上で示した全体での時間配分がカレンダー的に示された「作業進行予定表」を作成して，論文の完成に至るまでの進捗状況を常に確認できる状態にしておくことを強くおすすめします．

＊＊＊

［おわりに］

論文は，人類の知的営為の成果のなかで，最も洗練されたもののうちのひとつです．論文を執筆するということは，新たな知的財産を生み出すという学術的な営為を通して人類に貢献するということにほかなりません．したがって，論文を執筆する決意をしたのであれば，まずそのことを，どうかおおいに誇らしく思ってください．今回のガイダンスが，あなたが論文を執筆する際の一助となることを願っています．